

（件名） サハリン国立総合大学と北海道の大学による学生交流の実施について**（1）大学生交流事業について**

宗谷総合振興局の独自事業として大学生交流事業が実施され、9月7日～9日の日程で、北海道の学生8名（稚内北星学園大学（4名）、北海道大学（2名）、北海学園大学（2名））がサハリン州を訪問し、8日には、午前にはサハリン国立総合大学の学生との意見交換、午後には現地学生の案内による市内視察が行われたので報告します。

本事業は、北海道とサハリン州との友好・経済協力提携20周年記念事業の一環として昨年9月に実施が予定されていたところ、胆振東部地震により中止となり、今年、学生間の交流をより深めることができるよう企画を練り直して開催されたものです。

（2）学生間の意見交換について

8日午前の学生間の意見交換では、ユジノサハリンスク市内のサハリン国立総合大学で、同大学の学生16名（日本語学科14名、他学科2名）が参加し、「北海道とサハリン州の未来図」をテーマに、学生相互によるプレゼンテーションやグループ討議を行いました。

プレゼンテーションでは、北海道から参加した学生から、「北海道とサハリンは、宗谷海峡を隔ててわずか43キロの距離である。私たちは良き友人となり、友情の架け橋になろう」と呼びかけました。サハリン側からは、これまでの北海道とサハリンの交流を紹介し、「今回の機会を得てさらに交流を深めていきたい」との発言がありました。

プレゼンテーション終了後、3つのグループに分かれ、引き続きテーマに沿った意見交換が行われました。日本語学科の学生が日本語を駆使して、自分の考えを述べ、それに対し北海道の学生も考えを述べるなど、予定されていた30分では足りないほど積極的な討議が行われました。意見交換終了後、学生たちは連絡先を交換し、今後も連絡を取り続けていくことを約束するなど交流を深めていました。

（3）当事業における事務所の取組について

当事務所では、宗谷総合振興局と共に、北海道とサハリンの学生たちにお互いに関心を持ってもらい、相互理解を深めるためにどのようなプログラムを提供すべきかについて、サハリン国立総合大学と3か月にわたって検討を進めてきました。

意見交換終了後、サハリン国立総合大学の教員と当事業について話す機会があり、「意見交換は学生同士の理解が深まり良かった。次回は意見交換の時間をより長くし、さらに相互理解を深める事業にしたい」と来年度以降に向けた取組についても意見を共有することができました。

当事業において北海道・サハリンの両地域間で共有された意見を今後の事業に活かし、両地域の人的交流が一層促進されるよう引き続き取り組んでいきます。



プレゼンテーションの様子



意見交換の様子1



意見交換の様子2

(件名) 中学生サッカー交流**(1) はじめに**

北海道コンサドーレ札幌のアカデミーU-14（中学校2年）チームが、サハリンでサッカー交流を行いました。

本件は、当地のサッカークラブ「FC サハリン」から、在ユジノサハリンスク日本国領事館及び当事務所に対し、日本のサッカーレベルをサハリンの選手・コーチに知ってもらいたいとのオファーがあり、今般、実現に至ったものです。当事務所では事業実施のため、両クラブ間の事前調整や、領事館と共にサハリン側とのプログラム作成に関わったほか、選手団に同行して現地調整に協力しました。

(2) FC サハリンについて

FC サハリンは、ユジノサハリンスク市を本拠地とし、トップチーム（ロシア3部リーグに所属）と小学生から高校生までの育成部門を持つクラブです。サッカーの他、新体操部門もあります。

(3) 実施結果

北海道からはコンサドーレの札幌・旭川・釧路・室蘭の各チームから選ばれた15名の選手が参加し、約1週間の行程の中で、FC サハリン2チームとコルサコフ市の1チームと試合を行ったほか、合同練習やレクレーションなどを通じ、FC サハリンの子供たちとの交流を深め、また、トップチームの試合観戦や市内の様々な文化教育施設訪問を通じ、ロシアについて見識を深めました。

北海道の選手たちは新しい環境に最初こそ戸惑った様子でしたが、ロシア語の挨拶を覚え、ロシア人とスマホの翻訳アプリで意思疎通を図るなど日々ロシアに馴染んでいき、FC サハリンの子供とはレクリエーションをきっかけに親しくなっていました。最終日の合同夕食会ではお互いに言葉が分からない中で、問題なくコミュニケーションとる姿に我々大人たちは感心させられました。

(4) これから

参加した選手からは、サハリンがかつて樺太と呼ばれたこと、自分の住んでいる街がサハリンと友好都市であることなど、これまで知らないことが多かったロシア・サハリンについて学ぶことができ、ロシア人に対してもポジティブな印象になったとの声が聞かれました。

また、両地域のコーチやスタッフの間では、この交流を一回で終わらせるのではなく、今後は選手に加え、コーチ同士の交流や中国・韓国などへの交流拡大も検討しながら、継続していくことが大事であると話し合われました。

当事務所では、今後もこのような両地域のスポーツ・学生交流を支援し、人的交流の拡大に取り組んでいきます。



試合前の国歌斉唱



試合の様子



試合後の記念撮影